

[0025]九州大学生体防御医学研究所年報 : 2010

<https://doi.org/10.15017/26853>

---

出版情報 : 九州大学生体防御医学研究所年報. 25, 2011. 九州大学生体防御医学研究所  
バージョン :  
権利関係 :



平成 22 年度 (2010/2011 年) の研究活動の概況

生体防御医学研究所・所長

谷 憲三朗

(たに けんざぶろう)

生体防御医学研究所では、生体の恒常性を維持している「生体防御」研究というユニークな研究課題のもとに生命現象の本質に迫る基礎研究を展開すると共に、生体防御機構の破綻による難治性疾患の発生機序の解明と診断、治療法の確立を目指した研究を展開し国際的にも高い評価を受けて参りました。平成 22 年度の主な活動状況は以下の通りです。

1. グローバル COE「個体恒常性を担う細胞運命の決定とその破綻」(平成 19 年度～平成 23 年度)を継続・推進させた。
2. 特別経費(プロジェクト分 新世代プロテオミクス技術によるシグナル伝達経路全貌解明-新規ハブ標的分子の探索による新たな創薬研究基盤の確立へ向けて-平成 22 年度～平成 27 年度)で、研究推進とインフラ整備をおこなった。
3. 平成 21 年 6 月 25 日、文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会から「全国共同利用・共同研究拠点：多階層生体防御システム研究拠点」(平成 22 年度～平成 27 年度)に認定され、平成 22 年度から本格的活動を開始した。
4. 生医研職員 4 名が最先端・次世代研究開発支援プログラムに採択され、1 名が日本学術振興会賞を受賞、1 名が第 27 回井上学術賞を受賞した。
5. ポストゲノムの先端的研究を積極的に推進して欧米トップジャーナルに研究成果を発表した。
6. 独自の Research Assistant 制度、大学院生を経済的に支援することによって、システム生命科学府、医学系学府における大学院教育に大きく寄与した。
7. 若手研究者自立的な研究環境整備促進事業では SSP(特任准教授)による「生体防御におけるポストゲノムサイエンス」研究を引き続き推進し、平成 23 年 4 月より 3 名全員を独立准教授に昇任することが決定された。
8. 若手研究者の交流の場として平成 22 年 6 月 9 日にコラボ II で親睦会、平成 22 年 8 月 18、19 日に第 5 回 GCOE 理医連携リトリート(第 13 回九州大学生体防御医学研究所リトリート)を九州大学医学系学府、システム生命学府、理学研究院の各大学院生および医学部医学科・生命科学科学生の参加のもと福岡市 The Luigans Spa & Resort で開催し、3 題の優秀および最優秀口演賞、2 題の優秀及び最優秀ポスター賞を選出した。
9. 第 6 回九州大学グローバル COE プログラム「個体恒常性を担う細胞運命の決定とその破綻」、第 20 回九州大学生体防御医学研究所(ホットスプリングハーバーシンポジウム)合同国際シンポジウム「New Horizons for Modern Science: Biology and Medicine at the Crossroads」を平成 22 年 8 月 19、20 日に福岡市 The Luigans Spa & Resort で開催した。
10. 平成 23 年 2 月 24、25 日に生体防御医学研究所にて、日本製薬工業協会のプレスツアーを開催し、研究所内で実施されている先端的研究内容について一般にも広く認識してもらう為の広報活動を行った。

11. 平成23年4月よりの九州大学病院別府先進医療センターの九州大学病院への移管が九州大学本部により決定されたことに伴い、別府地区にある九州大学生体防御医学研究所3研究部門の閉鎖手続きを行った。
12. 東北地方太平洋沖地震被災研究者支援の為の共同研究（被災研究者支援）募集を開始した。
13. 先端的研究方法、最新知識を体得するために、国内外から第一線の研究者を招聘して生医研・グローバルCOE理医連携セミナーを引き続き実施した。
14. 平成23年2月9～13日 G-COE シンガポールリトリートを NUS(シンガポール国立大学)と行った。初日はNUSでPIクラスの国際シンポを行い、その後インドネシア領のビンタン島に移動し、大学院生主体の発表会を行った。

大学附属研究所におきましては、高品質で独自性の高い最新の基礎研究成果の情報を発信し続けることはもちろんのこと、社会貢献・国際貢献に関する活動を社会に対して目に見える形で示すことで、研究者コミュニティでの存在感を高めることが、ますます重要となってきています。これらの課題に適切に対応するために今後とも生体防御医学研究所員一同、より一層の努力を行う所存であります。何卒、本研究所の今後の発展のために厳しい御指導、御鞭撻とともに御支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成23年4月1日